

第95回 東葛しぜん観察会

我孫子のかくれた里山ウォッチング

龍門海行（柏市）

日 時：2013年9月8日（日）10時～12時 天気：曇り～小雨

場 所：谷津ミュージアム（我孫子市）

参加者：一般 29名（内、子ども 2名）、指導員 19名

担当指導員：鈴木俊二、鈴木とし子、龍門海行

心配していた我孫子地区雨天 50% 予報の中で催行したが、一時的に小雨がパラッと降ったが、観察会には殆ど影響なく実施できた。また、参加者のキャンセル等を心配したが、予定した人数が東我孫子駅に集り、班分けしたのちフィールドの「谷津ミュージアム」へ向かった。出発地点にて谷津ミュージアムの環境特性や「かくれた里山」と銘打った理由等を説明。

観察会途中にて、全般的に温暖化のためか、サワフタギの青い実やスズメウリの実、ネムノキの実、コブシの実等の成り具合が例年より早いような気がする事。又、ツリガネニンジン、センニンソウ、ツルボ等々の草花の色、成長過程等も多少変化が感じられる事。かつ、里山環境維持管理作業が減ると、休耕地等に好ましくないオオブタクサ等々の繁茂が著しい現状を体感してもらった。

珍しい野草としてデンジソウ（田字草）が古代米耕作地際に生えていたが、本来この地に有ってはならない野草で、何らかの過程を経て繁殖しており、これからもこの地区における植物生態系にも影響を及ぼす事も考えられる。

ポンプ小屋近くではアカガエルの存在が確認されたが、参加者が一番関心を持ったのはメダカ（原種との事）の群れで泳いでいる姿ではなかつたろうか！！ 童謡歌にある「メダカの学校」では川の中のメダカの姿であるが、最近では殆ど目にする事も無く、ここでは田んぼの中での泳ぐ姿を発見した事に非常に感激していた参加者の姿が印象的であった。なお、この付近のカヤが繁茂している所にカヤネズミの巣があり、遠目であったが目視でも確認でき、カヤネズミの参考写真を提示した所ところ、小さいのに驚き、かつ初めての見分に感激をしていた。

ゴール地点では一般市民（ボランティア、守る会等）の手刈りによる稲刈りの最中であり、昔を思いだす参加者も多数いた。

ゴール付近での参加者の反応は、素晴らしいフィールドであり、又来訪したいとの声が多く、メダカ、カヤネズミ等がいる自然の豊かさに感心して帰途へと向かった。

我々の反省会では、今回子ども 2人の参加があったが、この対応策も今後、班編成の中で考慮する必要があるとの指摘があった。今回はたまたま、子どもの対応に慣れたスタッフがいたので対応できたが、土日催行であれば親子連れでの参加も考えられるので、子ども達も楽しめる観察会体制を取り、より幅広い年代層での観察会も視野に入れる事の重要性を感じた。



田んぼの水辺の群れで泳ぐメダカ